

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

事業名 乗鞍環境保全対策費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 環境企画課 中部山岳国立公園活性化推進係

電話番号：058-272-1111(内 2699) E-mail: c11265@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 17,868 千円 (前年度予算額：20,598 円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	20,598	0	0	0	0	0	32	0	20,566
要求額	17,868	0	0	0	0	0	0	0	17,868
決定額	17,868	0	0	0	0	0	0	0	17,868

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

乗鞍地域(中部山岳国立公園内乗鞍鶴ヶ池集団施設地区周辺)は標高2,700m域を自動車で訪問できる県内有数の観光地であり、この貴重な自然環境を岐阜県の自然資産として後世に残すため、環境保全施策を実施。

乗鞍地域は、高山帯の貴重な動植物の生息地であるが、多数の人が入り込むことによる自然環境の悪化が懸念されている。

(2) 事業内容

①(新)乗鞍自然環境保護員設置

令和2年度まで、会計年度任用職員として、乗鞍鶴ヶ池集団施設地区において、利用者が自然環境に与える影響を低減させるため配置していた「乗鞍パトロール員」を設置・運営する業務

②獣害対策研究会

乗鞍地域におけるツキノワグマの出没やイノシシ等の食害についての研究会等を開催

③環境影響評価調査

乗鞍スカイラインの自動車利用の規制見直しの検討資料とするため調査を実施

(3) 県負担・補助率の考え方

・ 県負担金 100%

法定外目的税である乗鞍環境保全税が主な財源

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	63	
費用弁償	62	
業務旅費	143	
消耗品費	56	
燃料費	32	
役務費	53	通信運搬費
委託料	16,991	乗鞍自然環境保護員設置 12,158 環境影響評価調査委託 4,833
使用料	298	パトロール詰所賃借料
その他	170	パトロール詰所共益費
合計	17,868	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

乗鞍環境保全税の目的により、継続して実施する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
乗鞍地域の自然環境について、入り込む客が与える影響を低減させることにより、国立公園内での適正な利用増進を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

環境影響評価調査や乗鞍自然環境保護員の活動費用が事業内容であり、これらによる保全対策効果の数値化は困難である。

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - （1）環境影響評価調査では、毎年、大気環境状況、植生等影響、水質調査を実施。
 - （2）乗鞍環境パトロール員による登山道、遊歩道以外への踏み込み、ゴミの投げ捨て防止等の指導に係る消耗品、チラシの印刷製本費。

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
乗鞍スカイラインのマイカー規制及び乗鞍環境パトロール員による利用者のマナー向上のための啓発及び踏み込み防止指導の効果により、緩傾斜地では植被率が回復傾向にある。
また、高山植物等の種類数（調査地）では、大きな変化はなかった。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	乗鞍地域は、観光客が容易に行くことが可能な高山地帯であることから、年間入込み者数も約14万人と多い。このため、利用者のルール違反やマナー低下が、容易に自然環境を悪化させるため、事業の必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	乗鞍地域の自然環境は、概ね良好な状態が維持されている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	乗鞍自然環境指導員を廃止し、乗鞍環境パトロール員に業務を統一し効率性を図った。（平成24年度）

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>乗鞍環境パトロール員は、過酷な自然環境の中で業務に従事するため、山岳地帯での活動に慣れており、自然環境への知識が豊富な人員の確保が必要である。</p> <p>外国人観光客が増えており、啓発チラシなどの多言語化が必要である。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>自然環境が改善し、概ね良好な状態が保たれているため、引き続き取り組む必要がある。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	